



# 白門板橋

2010. 3. 15 VOL.33

編集 中央大学学会 東京板橋区支部

発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



## ■「新春の集い」挨拶要旨

### 今年も元気で楽しい一年に

副支部長 平山 惟業



新年明けまして、おめでとうございます。

石塚支部長が所用で欠席されましたので、不肖私が代打でご挨拶申し上げます。高い所からお赦下さい。

われわれ中大卒業生にとって、新年は駅伝から始まりませんが、会社の後輩が年始の挨拶で、「先輩、箱根駅伝四位おめでとございます」と挨拶されました。黄金期を知る者には頗る不満でしたが、四位に奢らず今後を頑張って欲しいと思いました。

昨年は、内外ともに明るい話題に乏しい一年でしたが、当支部では唯一、新入会員が一五名も入会し、今日も五名の新しい仲間の出席があり、大変嬉しく思っております。これで支部の平均年齢も大分下がると思います。

支部の事業を振り返りますと、観桜会・総会・秋の旅行・忘年会・新春の集いまで滞りなく実施できました。政策絡みの事業として、母校創立二五周年事業の募金活動にも六〇万円余の拠出をいただき、都区内支部で七位をキープできました。また宿願の支部会員増強運動では、有志の活躍で多くの新しい仲間と出会うことができました。

ニコライ堂を仰ぎ、神田川を眺めながら縁あって同じ学舎に学んだ者同志が、胸襟を開いて語り合い、仲良く盃を酌み交わすことができる学員会は素晴らしいものです。

今年も元気で、楽しい一年にしましょう。

(一部加筆訂正しました。)

# 支部のニュース

## 「新春の集い」に 58名が集う

恒例の支部「新春の集い」が、去る一月二十二日（土）午後六時から区立文化会館大会議室を会場に開催され、五十八名が集いました。当日は、石塚支部長が所用で欠席されたため、急遽代打で平山副支部長が新春の挨拶。

酔う前にブロック別に記念撮影を済ませ、水野相談役の発声で乾杯！、早々に歓談に入りました。



▲元気に乾杯する参加者

今年の「新春の集い」は、格別に新しい企画はありませんでしたが、新規入会の会員が五名参加して、初参加の会員と共に壇上で元気に自己紹介をされるなど、会場に新風を吹き込んでくれました。

歓談が進むと佐藤（義）カラオケ部長に進行が委ねられ、有志による歌の競演があり、最後は「惜別の歌」を合唱し牧相談役の発声で中締めとなりました。（池田記）

### 母校創立二五周年 記念事業募金状況

一月一日現在の募金状況が、記念事業募金推進本部から、左記の通り発表されました。

記

#### ▽板橋区支部

累計申込み金額

六、一三五、〇〇〇円

累計申込み人数

七十二名

この成果は、港・大田・世田谷・中野・目黒・杉並区支部に次ぐ都区内支部で七位。ご協力誠に、ありがとうございました。

（募金推進委員・池田記）

## 「板橋区民まつり」に初参加

昨年十月十七・十八日に開催された第38回「板橋区民まつり」に当支部が初めて参加しました。

目的は支部会員の増強で、役員が中心のプロジェクトチームが、会場となった板橋二中の校庭にテントでしつらえたコマに陣取り、「板橋白門会」の幟がはためく中を、日大・明大・早大と競って、新設の付属中学まで含めた大学をPRし、入会を呼びかけました。有志の奮闘努力の結果、想定外の十五名の新しい仲間と出会うことができました。（大野記）



▲区民まつりに参加した有志

### TOPICS①

3冠を狙ったN大だが

\*

●出雲駅伝と全日本大学駅伝の覇者・N大が、まさかのシード権を失った。往路2区で留学生タニエルが、アレヨアレヨと8人をゴボウ抜きし区間賞をとり、一時は2位にまで迫ったが、たすきを渡すごとに順位を下げ、復路13位でスタートするも15位でゴール。2冠の覇者がシード落ちしたのは、史上初だとか。●駅伝博士のK氏に尋ねると、箱根では外国人のエントリーが一人に制限されているから……ネ。ということだったが、誰も同情するものはない。●中大も優れた留学生を入れたら優勝できるのに……という声も聞かえるが、白門は文字通り純潔を貫く方針と聞いて嬉しくなった。（平山記）

# 母校のニュース

## 市ヶ谷に大学院新校舎

母校では法科大学院など都心展開の一部に当てるため、市ヶ谷田町に新校舎(校舎名・中央大学ミドルブリッジ)を買収しました。場所はJR市ヶ谷駅ホームから見える、東京理科大学の並びに位置する一等地です。社会人学生の増加が見込まれるこれからの大学院は、都心の交通至便な立地条件が考慮されたものと思われま

## 最高裁判事に二学員が就任

学員の須藤正彦氏(41法)が、12月28日に、横田尤孝氏(44法)が、1月6日にそれぞれ最高裁判事に就任しました。

法曹会の頂点とも言われる最高裁の判事に、本学学員が二名も選任されたことは、大変名誉なことであり、両氏の活躍を祈りたい。

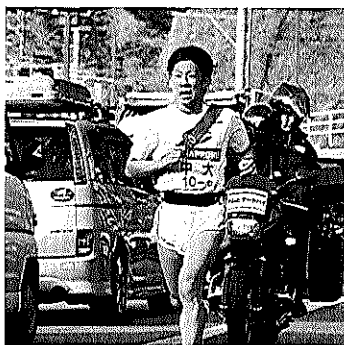
## 箱根駅伝四位に終わる

正月恒例の箱根駅伝は、四位となり、二十六年連続のシード権を確保しました。

目標としていた三位以内(浦田監督)には届かなかったが、全力を尽くしての結果なので、素直に拍手を送りたい。とりわけ、山下りを担った山下隆盛君(三年)は転倒しながらも最後まで気迫のこもった走りを見せ、私たちを感激させてくれました。

今年四月には、陸上競技部専用の寮も完成し、七人もの期待の新人も入学します。

いずれも駅伝の名門校で活躍した選手ばかりで、来年が楽しみで



▲6区を激走した山下選手



▲期待の沢村・山崎投手

主な選手は、次の通りです。  
西嶋悠(佐賀・白石)

上村顕斗(熊本・九州学院)

代田修平(長野・佐久長聖)

須河宏紀(富山・富山商)

硬式野球部☆☆☆

## 春季リーグ戦に期待

母校・中大の野球部は、昨年春季とともに優勝を期待されながら、いずれも四位と不本意な結果に終わりました。

今年も四月六日から春季リーグ戦が開幕しますが、沢村・山崎の両エースは四年生になり、W大の斉藤、大石投手らとともにプロ球団の注目が集まることも予想されます。

## 入学依頼者三千人減

中央大学では、毎年新たな入学試験方法(センター試験利用、統一入試・地方試験)を実施してきたことから、志願者も増加を続け、昨年、開校以来の志願者数を記録したが、今年は格別の増加理由もなく、昨年の反動もあつてか、約三千人減の八万二千人余り(後期試験除く)にとどまりました。

## 付属中学校に多数の志願者

今年四月に開校予定の中央大学付属中学校入学試験が、去る二月一日・四日の二日間に行われ実施されました。

志願者は二百合わせて、九六九人(定員一五〇人)でした。試験当日の様子は、NHKテレビの夜のニュースで放映され、「不況の中でも私立の中学校入試は盛況」とコメントされました。

新設の付属中学校ながら中央大学という親大学の知名度が、影響したと思われる。(栗原記)

# 「惜別の歌」考

石塚 輝雄

先日「いたばしの歴史散歩」(小林保男著)が出版されました。

この本は、板橋区町会連合会副会長、板橋区文化団体連合会会長である小林保男先生が、平成九年九月号から「いたばし町連」に連載した中に、「板橋火薬製造所」の記述で私たちが歌う「惜別の歌」について、次のように紹介がありましたので、引用させていただきます。

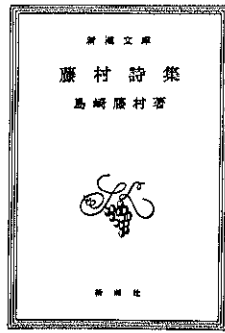
平成十七年十一月十八日の読売新聞朝刊の「編集手帳」に中央大学の予科生だった藤江英輔さんが勤労働員され、東京の陸軍第一造兵廠で働き始めたのは、昭和十九年十九歳の時だった。——とあって、この藤江さんが島崎藤村の詩集「若菜集」にある「高樓(たかどの)」「の詩に、「惜別の歌」と題して曲をつけた。そして、造兵廠の休み時間、

遠き別れに耐えかねて、この高樓にのぼるかな

次々と戦地に赴く友の送別の時に、歌ったという。

戦後、小林旭が唄ってヒットし今でもカラオケで検索できる寿命の長い名曲である。……と、綴っております。

板橋火薬製造所は、藤江さんが勤めたという造兵廠の前身であり



日本の近代工業の一端を担った歴史散歩の跡であります。

格別の歌誕生の秘話は、気になる新聞記事であります。

戦時中の厳しい環境の中で、作曲した藤江さんの気持を思いながら、今後とも私は唄ってみようと思っております。

\*\*\*

へ註

文中の造兵廠(しょうへい)とは、兵器を製造する工場の意。

## 「惜別の歌」考(二)

当編集部では、去る平成十七年六月二十四日付で、「惜別の歌」

によせて、と題して、文藝春秋社発行の雑誌『本の話』(五月号)

に掲載された記事(対談)／藤江英輔×北村薫をお届けしました。

対談のタイトルは「美しい言葉は時代を超えて甦る」でした。

## 「惜別の歌」考(三)

関連記事として、当編集部編集の「板橋区支部十年のあゆみ」の二十三頁に掲載しました。

歴史探訪①

「藤江英輔と板橋」——学徒勤員先で火薬製造のかたわら作曲を参照ください。(編集部)

### ■支部・年会費の納付に

ご協力ください。

☆☆☆☆

通常、六月開催の定時

総会にご出席の会員に、

年会費／三千元

をお願いしております。

## 計 報

二月十六日逝去

金子 益朗(38法)

病氣療養中の処、急逝されました。まさに惜別！



支部の常任幹事・会報編集長を兼任され、支部の活動に多大な貢献をされました。

謹んでお悔やみ申し上げます。(合掌)

\*

本誌『白門板橋』33号の編集(案)を編集委員会に託したまま会議を欠席して間もなく入院。

早期快復を願いながら、留守部隊で編集し、刊行にこぎ着けました。(H記)

# 告知板

## 定時総会日程決まる

支部の定時総会の日程が、次の通り決定しましたので、お知らせ致します。

記

日時／六月二六日(土) 午後六時

\* 五時三十分受付開始

場所／区立文化会館4F

大会議室

■板橋白門会HP

\*\*\*

当支部では、「板橋白門会」の広報活動の一つとして、ホームページを開設しています。

\*

Webページは

<http://www.hakumon-ita>

[bashi.net/](http://bashi.net/)

または、検索：板橋白門  
で閲覧できます。(佐藤)

## 支部観桜会の日程

支部恒例の事業・観桜会(花見)の日程が、次の通り決定しましたので、お知らせ致します。

記

日時／四月三日(土) 一時出発

(十二時四十五分集合)

場所／浅草橋・船宿「三浦屋」

JR浅草橋駅下車五分

\* 隅田川に屋形船で遊ぶ。

会費／一万円(飲み放題)

担当／区外ブロック

申込み/別途、「ご案内書」を  
お送り致します。

問合せ/事務局・大野

または、池田・平山

## ■ゴルフ同好会

今年度・第一回の日程が、次の通り決定しました。

記

日時／四月六日(火)

会場／江戸崎CC

\*

・昨年の成績

日時／十月五日(月)

会場／高根CC

参加者／二十四名

優勝 笠原 優

準優勝 小林富十雄

二位 山田きみ子

## ■カラオケ同好会

今年度・第一回の日程

日時／五月七日(金)

午後五時三十分

会場／レストラン「サンイチ」

## ■パソコン同好会

今年度・年間スケジュール

日時／五・六・七・九・十一月

の各月一回、二時間。

会場／JR板橋駅前

「ハイライフプラザ」

世話人／吉岡聯太郎

\*

## TOPICS③

### 故人のメッセージ

●今年度・同好会のスケジュールが決定した。

急逝した金子益朗(本誌の編集長)氏は、ゴルフ・

カラオケ・パソコンの全同好会に所属して、それぞれ

抜群の成績を遺した。

●中でも、カラオケは支部

の中でも五本の指に入る腕

前だった。

フランク・永井の「おま

えに」は、彼の十八番。地

酒に程よく酔って歌う姿が

想い出される。

●趣味の多い人は、人生を

生き生きと生きている証拠

で、話題も豊富だ。

無茶大食の者から見れば

何と羨ましいことか。限ら

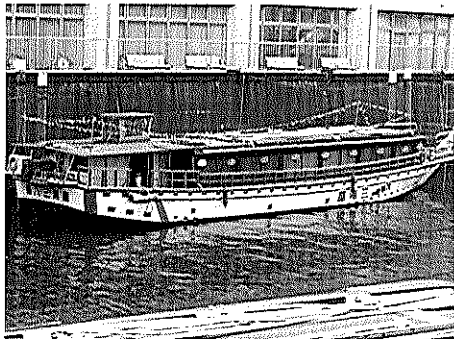
れたたった一度の人生なの

だから、大いに人生を楽し

むべしと、尊いメッセージ

をもらったように思う。

(平山記)



■秋の旅行記■

# 浜名湖・館山寺温泉を訪ねました

リポーター  
前田 昌則

## ■快適な東名ドライブ

支部恒例の行事・秋の旅行は、昨年11月13日(金)から一泊で浜名湖・館山寺温泉を訪ねました。

二十三名を乗せた観光バスは、浜名湖を目指して板橋グリーンホテル前を出発。担当ガイドは、自称「中村メイコ」と自己紹介する大ベテランで、ユーモアに富んだ挨拶で車内の笑いを誘う。

発車して十分後には、後部サロン席から「乾杯ー」の音が沸き上がり、楽しい旅の期待が一気に高まりました。

途中、トイレ休憩を挟みながら東名高速をひた走り、予定通り浜名湖ハマナ・コスタ港に到着。

昼食後、観光船で二十分程で館山寺温泉に着きました。ホテルに入る前に、弘法大師が開いた古刹で、その後源頼朝が自らの祈願寺として、再建したという曹洞宗の禅寺・館山寺を参拝。周囲に遊歩道があり、途中に点在する「縁結

地藏尊」や「聖観音」に合掌。高台からの浜名湖の景色も楽しめました。

「レイクホテル・花乃井」に到



▲写真は浜松城(出世城)

着後は、大浴場や露天風呂でゆっくりと湯につかり、身体を温めました。

大広間で始まった宴会は、いつものように酒・肴に舌鼓を打ちながら、にぎやかに歓談が続ぎ、誕生日を迎えた会員を祝う「ゲーキカット」も行われ、カラオケのど

自慢の競演となりました。

ホテルの代表者(61歳)は、白門のOBであることが分かり、たまたま不在のごことで代わりに営業部長が挨拶され、飲み物をサーブしてくれました。

## ■雨男がいたか?

翌朝は、雨音で目が覚めたほどの豪雨でしたが、出発時には雨もあまり傘は使わずに済みました。

浜松は、若き徳川家康に想いを馳せる「出世城」とも称される浜松城を中心に、戦国時代に関わる史跡を訪ねる観光客が増えているそうです。

家康は、「三方ヶ原の戦い」で武田信玄に大敗。命からがら浜松城に逃込みました。その後、一矢を報いようと、犀ヶ崖近くに野営する武田軍を襲撃し、地理に不案内な武田軍は混乱して崖から転落して、多くの犠牲者を出したことが「犀ヶ崖資料館」に遺されています。

ここで、館員の話やビデオにより、徳川と武田軍が戦った経緯から家康の強運が自らの命を救ったのではと、説明を受けました。浜松城の天守閣には、家康に關

するエピソードや武具などの資料が展示されており、出世城と呼ばれた理由も説明されています。

家康が天下を統一して駿府に入場した後、出世城は家康ゆかりの譜代大名が城主になり、多くが老中等に出世したためであり、特に有名な城主は、天保の改革で知られる水野忠邦とされており。

## ■ドイツ料理を満喫

昼は、「はままつ地ビール・レストラン」でドイツ・バイエルン地方特産の地ビールとドイツ料理の昼食をとり、前日から和食が続いたこともあり、全員から「美味しい!」と、大好評。売店では、ビールをはじめ土産をしっかりと買っ込んでいました。

また近くの地酒の蔵元で、漬酒の仕込み蔵を見学。当蔵元のメイン漬酒「出世城」などを試飲して満足顔でバスに乗り込み、帰路につきましました。

東京に向かう車内は、何度も繰り返される乾杯!と、カラオケで前夜の宴会同様に盛り上がりました。途中、首都高が渋滞しましたが、午後六時三十分ごろ板橋区役所前に無事到着しました。

# 蓮池薫文学拾い読み②



■白門作家シリーズ■

## 『孤将』

訳者／蓮池 薫

発行所／株式会社新潮社

### ■訳者プロフィール

前号で紹介しているので略。

本書は、二〇〇五年五月に蓮池氏が初めて翻訳して新潮社から刊行されたものを文庫化して昨年十月に発行された。

本書は蓮池氏が翻訳家としてのデビュー作である。

### ■原作者・金薫プロフィール

一九四八年、韓国ソウル生れ。記者として永く新聞社に勤務し、エッセイを多数手がけ、小説家に転ずる。

二〇〇〇年代に入り各種文学賞を受賞、本書は発売とともに話題騒然とし、五〇万部を超える売り上げは、今や韓国の売れっ子作家の一人である。



豊臣秀吉の軍勢が海から押し寄せてきた。二つの国の命運を賭けた壬辰倭乱(文録・慶長の役)が始まった。

巧みな戦術と新兵器・亀甲船で戦国武将の前に立ちはたかる李舜臣。だが、彼の敵は眼前の日本軍だけではない。無能な同僚、浮き世離れした王、傲慢で頼りにならない明軍。救国の英雄として語り継がれる将軍の孤独と苦悩を描いている。

### ■筆致

／初めて女真を抱いたのは、丙申年(一五九六年)の秋だった。そのとき戦局は、收拾のつかない

い膠着状態にあった。釜山と蔚山 喉が渴いてきた。

で籠城を続けていた敵は、城から出てこようとせず、わが陸軍も敵を海に追い立てることができずにいた。当時、私は内陸地方の官衙をまわりながら、徴兵忌避事件を摘発していた。水軍統制吏が来るという噂に逃亡した官吏もいた。水軍を脱走して村に逃げ込んだ者を見つけ出しては、麦五斗の賄賂を受け取って、見逃してやっていた。その官衙もいた。咸平の前衛である。その官衙と脱走兵三人を捕まえ、斬首刑にした。処刑は、焼けた寺子屋跡で執行されたが、そのとき、死んだ官衙の家族は狂ったように泣きわめき、最後には氣を失ってしまった。

手の中はひび割れ、頭髮からは 饅えたような臭いがした。けつして清潔とはいえなかったが、瞳は恐ろしいくらい澄んでいた。視線は人の心を射るかのようにはいりきで、思わず目をそらさずにはいられないほどだった。

村の太木に吊された罪人の首の ことを思い浮かべながら、その夜 私は、女真を抱いた。(以下略)

失ってしまった。

処刑された四人の首は、村の太木に晒された。麦五斗の賄賂で、一家族の戸籍を不在者として記載した官衙も、咸平の山中で捕まった。(中略)

その夜、私は郡守の家に泊めてもらい、すでに死体となった身体に加えられた杖刑のことや、賄賂でもらった麦で粥を炊いて食べたにちがいない官衙の家族のことに思いを馳せ、座っていた。無性に

だが、日本人が読んで気分の良いはずはない。しかし、どんなに優れた将軍でも、心底敬慕して来る部下は少ないもので、頂点に立つ者の宿命とも言える「孤独」がついて離れないのは、読む者に同情心さえ起こさせる。(平山記)

## 地名の由来…②5

# 「熊野町」の巻

■町名は町会の投票で決める  
熊野町という町名は、昭和33年にできました。江戸時代には、武蔵国豊嶋郡中丸村の一部で、明治11年に北豊嶋郡板橋町大字中丸となり、昭和7年の板橋区成立と共に

は「上町」（大正12年にできたこの地域の親睦会で「上町会」というものがありました。）と、「熊野町」が上位であったので、投票により決めたとされています。  
熊野町については、町内にある熊野神社を尊敬する住民が多かっ



たことには依ると思われま

した。熊野三社とは、熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社の総称です。この地方は、日本有数の降雨量の多い地域で巨木が育ち、この材木の切り出しや狩猟によつて生活していた人々が、巨木を祀ったのが信仰の起りと考えられます。  
熊野本宮大社の祭神である家都御子神（けつみこのかみ）の神名の本来の意味は、「木の御子の神」と言われます。後にその神は、天照大神の弟神である素戔鳴尊と同一の神とされました。「紀伊の国」は「木の国」に由来するのでしょうか。

（中三川幸幸記）

### 編集後記

●支部の観桜会が、四月三日に隅田川に屋形船を仕立てて実施される。

年々歳々花相似たり  
歳々年々人同じからず  
（劉廷芝）

●観桜会を前に、一月十六日、本号の企画書を遺して、金子編集長が急逝した。なぜそんなに死を急いだのか？

会報『白門板橋』33号を、謹んでお供え致します。（編集委員会一同）

に、板橋町二十目となりました。

なぜ「熊野町」という町名になったかといえますと、区より自主的に町名を決めるように求められた時に、町会全員に町名を募集して選んだ結果です。募集した中で

たことに依ると思われま

### 熊野信仰の起り

この神社は、応永の頃に、岩田氏（地主）の先祖が熊野権現を分祀して祭祀されています。

熊野信仰は、紀伊半島南部の熊野三社（熊野三山）から起りま

たことには依ると思われま

### 熊野の神と皇室

平安時代半ば頃から、熊野信仰は山岳仏教と結びついていきました。奥深い熊野の山中で修行する僧侶が現れて修験者（山伏）となり、その本拠地である青岸渡寺は那智大社のすぐ隣にあります。

修験者は、強い呪力を持つとされたため、平安末院政を敷いた白河法皇、鳥羽法皇などが国を治めるために何度も熊野詣でをされました。この頃から皇室の保護のもと修験者により地方への布教が盛ん